

新潟県がん・生殖医療ネットワーク

ページ番号：0441217 更新日：2021年4月1日更新

新潟県がん・生殖医療ネットワークの目的

県では、がん治療医と生殖医療医を結びつけ、将来、子どもを持つことを希望するがん患者さんに対して、妊孕性（にんようせい）（*）温存に関する適切な情報を提供することを目的として「新潟県がん・生殖医療ネットワーク」を設立しました。

がんの診断後、その治療が始まるまでに、妊孕性に関する情報提供や、妊孕性温存治療を行う施設についての情報を提供していきます。

（*）妊孕性（にんようせい）：妊娠するための能力

がん治療と妊孕性温存療法

一部のがん治療は、卵巣や精巣などに対する毒性を引き起こすため、この影響により、将来子どもを持つことが困難になることがあります。

これまでのがん治療は、病気を克服することが最大のゴールであり、がん治療に伴い将来子どもを持つことについては目をつぶらざるを得ないこともありました。

しかし最近では、生殖補助医療技術（*）の進歩により精子や卵子などの凍結保存などが広く普及してきています。これらの進歩やデータの蓄積によって、一定の制限があるものの、がん治療後の妊孕性を温存するための治療も試みられるようになってきています。

（*）生殖補助医療技術：体の中での受精が困難になった患者さんに対して、卵子や精子を体外に取り出し、体外で受精させる技術

ネットワークの仕組み

このネットワークは、主にがんの治療医と生殖医療を行う産婦人科医によるネットワークです。ネットワークで行う主な事業は、以下の2つです。

1. 妊孕性温存療法（卵子・受精卵・精子凍結等）が行える新潟県内の施設と実施情報を公表し、これからがん治療を受ける方に妊孕性を温存するための情報を提供すること
2. がんの診断から治療開始までの短い時間に、スムーズに妊孕性温存療法実施施設へ紹介できるようにすること

重要なお知らせ

[新型コロナウイルス感染症 新着情報・まとめ](#)

[新型コロナウイルス感染症 各種情報の目次](#)

見つからないときは

基本的感染対策の実践

マスク着用



距離の確保



手洗い



手指消毒

行財政改革県民説明会を開催します

参加募集中！

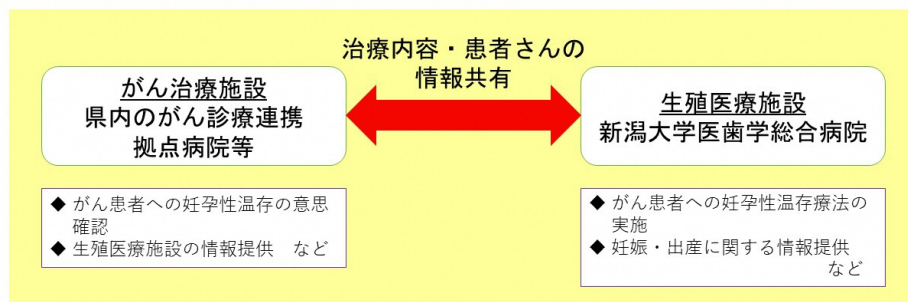
Zoomでも
参加可能です

太郎さんとトキ子さん

新型コロナお知らせシステム

“もしも”に備える
「新しい生活様式」

新潟県がん・生殖医療ネットワーク 連携模式図



※県内のがん診療連携拠点病院等については、下記URLをご覧ください。

[がん診療連携拠点病院等について - 新潟県ホームページ](#)

がん患者のみなさま

これからがん治療を受ける方で、将来、子どもを持つことを希望する方は、できるだけ早くその旨を、がん主治医へお伝えください。しかし年齢やがんの種類や進行度等により、妊孕性温存療法を行えない場合もあります。

また、県では、小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法治療費助成事業を実施しております。

医療従事者のみなさま

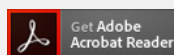
将来子どもを持つことを希望する患者さんがいらっしゃいましたら、がんの治療開始前に、妊孕性温存療法実施施設へご紹介ください。紹介状の様式を以下よりダウンロードできますので、ご利用ください。

 [紹介連携フロー \[PDFファイル/293KB\]](#)

 [診療情報提供書 \(Excel\) \[Excelファイル/84KB\]](#)

 [診療情報提供書 \(Word\) \[Wordファイル/31KB\]](#)

 [原疾患主治医同意書 \[Wordファイル/14KB\]](#)



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。（無料）

このページに関するお問い合わせ

[福祉保健部 地域医療政策課](#)

地域医療整備室

Tel : 025-256-8947 Fax : 025-284-0277 [メールでのお問い合わせはこちら](#)

シェア

Tweet

LINEで送る

[県公式SNS一覧へ](#)